

2017年3月期 決算説明資料

2017年5月25日

文化シヤッター株式会社

目 次

P1 2017年3月期の実績について

- P2 事業環境
- P3 業績
- P4 売上高および営業利益の増減要因
- P5 セグメント別売上高および営業利益
- P6 売上高の用途別セグメント別分析

P7 2018年3月期の見通しについて

- P8 事業環境予想
- P9 業績見通し
- P10 売上高および営業利益の増減要因
- P11 セグメント別状況

P12 重点施策の進捗状況について

- P13 基幹事業の拡大① シャッター事業の強化
- P14 基幹事業の拡大② ドア・パーティション事業の強化
- P15 注力事業の強化① エコ&防災事業の強化
- P16 注力事業の強化② メンテナンス事業の強化
- P17 注力事業の強化③ ロングライフ事業の強化
- P18 注力事業の強化④ 海外事業の強化
施工体制の強化拡充

P19 トピックス

- P20 トピックス「B Xカネシンが新体制でスタート」
トピックス「ガバナンス体制の強化」
～監査等委員会設置会社への移行～

P21 参考資料

- P22 文化シャッターグループ概要
- P23 文化シャッターグループの会社構成と海外事業展開
- P24 連結貸借対照表
- P25 連結キャッシュフロー計算書
- P26 シャッター関連製品の状況（単体）
（重量シャッター、軽量シャッター、窓シャッター）
- P27 建材関連製品の状況（単体）
（ドア、パーティション、エクステリア）
- P28 サービス事業、リフォーム・リニューアル事業の状況

2017年3月期の実績について

【事業環境】	2015年3月期		2016年3月期		2017年3月期	
	実績	伸率	実績	伸率	実績	伸率
新設住宅着工戸数 (万戸)	88.0	89.2%	92.0	104.6%	97.4	105.8%

非住宅着工床面積 (万㎡)	2015年3月期 実績	2015年3月期 伸率	2016年3月期 実績	2016年3月期 伸率	2017年3月期 実績	2017年3月期 伸率
	5,261	93.2%	4,998	95.0%	5,133	102.7%
工場 (万㎡)	771	96.0%	885	114.7%	828	93.6%
倉庫 (万㎡)	819	116.7%	809	98.8%	865	106.9%
医療・福祉 (万㎡)	915	82.4%	692	75.7%	736	106.4%
店舗 (万㎡)	714	85.6%	605	84.7%	561	92.8%
事務所 (万㎡)	618	98.6%	612	99.0%	668	109.2%

◆ 経済環境について

政府による経済政策等を背景に、総じて緩やかな回復基調で推移し、雇用・所得環境に改善の動きが見られた。

その一方で、中国や新興国経済の成長鈍化、英国のEU離脱、米国の政権交代による政策動向など、景気の先行きに対する不透明感が高まる状況で推移した。

◆ 建築市場について

当グループの先行指標である新設住宅着工戸数は、相続税対策に伴う貸家の着工増が牽引し、前期比5.8%増の97万4,000戸で推移した。

同様に非住宅着工床面積(建築確認申請時点)は、工場と店舗向けが減少したが、倉庫と医療・福祉、事務所向けが増加したことで、前期比2.7%増の5,133万㎡と3年ぶりに前年を上回った。

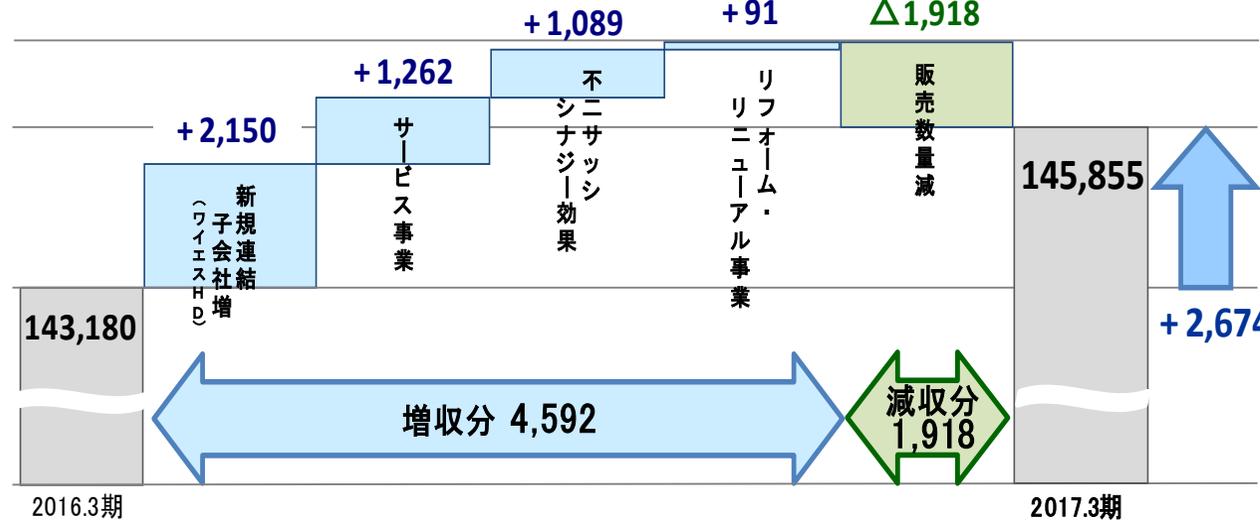
(単位: 百万円)

	2016年3月期		2017年3月期					
	実績	売上比	11月予想	実績	売上比	前期比	予想比	
売上高	143,180	100.0%	147,000	145,855	100.0%	101.9%	99.2%	
売上原価	103,823	72.5%	107,500	107,708	73.8%	103.7%	-	
売上総利益	39,356	27.5%	39,500	38,146	26.2%	96.9%	-	
販売費及び一般管理費	29,269	20.4%	30,500	30,866	21.2%	105.5%	-	
営業利益	10,087	7.1%	9,000	7,280	5.0%	72.2%	80.9%	
経常利益	10,524	7.4%	9,500	8,463	5.8%	80.4%	89.1%	
当期純利益	6,349	4.4%	6,400	5,967	4.1%	94.0%	93.2%	
1株当たり配当金	20円		20円	20円		-	-	
設備投資額	5,475		-	8,098		147.9%	-	
減価償却費	2,505		-	2,954		117.9%	-	
期末 従業員 (人)	正社員	3,805	-	4,012		207	-	
	臨時雇用者	945	-	1,056		111	-	
	合計	4,750	-	5,068		318	-	

- ◆ 売上高は、連結子会社の増加もあり、7期連続の増収、4期連続で過去最高の売上高を更新。
- ◆ 営業利益が11月発表の通期予想を下回った主な理由は、取付経費の増加と、競争激化によるドアの販売価格が想定以上に下落したことが影響。
- ◆ 設備投資額約80億円の主な内訳。
 - ・設備の合理化及び更新で約28億円
 - ・子会社の自社ビル購入で約29億円
 - ・次期情報システムの開発費で約10億円
 - ・試験検証施設ライフインセンターの増設で約9億円
- ◆ 「1株当たり配当金」は、20円。

売上高および営業利益の増減要因

【売上高】 (単位:百万円)



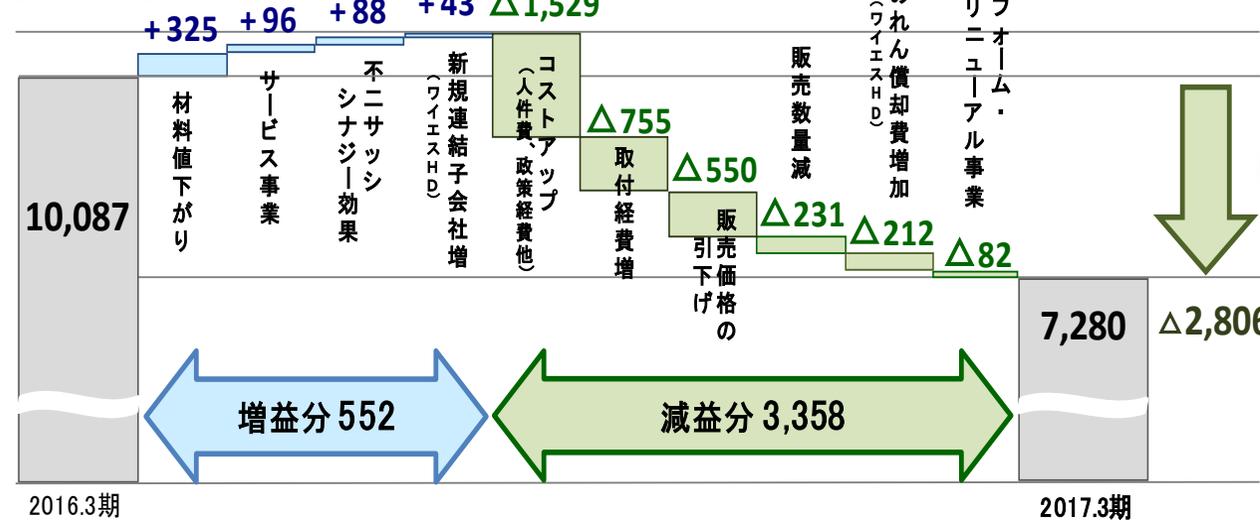
◆「売上高」の増減要因

増収要因は、「新規連結子会社の増加」、「サービス事業」、「不ニサッシとのシナジー効果」などが寄与。

減収要因は、「販売数量の減少」が影響。

トータルで26億7,400万円の「増収」。

【営業利益】 (単位:百万円)



◆「営業利益」の増減要因

増益要因は、「材料価格の値下がり」、「サービス事業」などが寄与。

減益要因は、従業員の処遇改善に伴う人件費の増加、次期情報システムの導入など政策経費を含めた「コストアップ」、「取付経費の増加」、「販売価格の引き下げ」などが影響。

トータルで28億600万円の「減益」。

セグメント別売上高および営業利益

(単位: 百万円)

	2016年3月期		2017年3月期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
シャッター関連製品事業	50,788 (51,200)	7,542 (7,680)	51,445 (52,600)	6,788 (7,550)
伸率	105.7%	111.7%	101.3%	90.0%
増減	2,728	790	656	△ 753
建材関連製品事業	64,658 (65,500)	3,401 (3,650)	65,275 (65,300)	1,829 (2,830)
伸率	122.0%	109.1%	101.0%	53.8%
増減	11,644	282	616	△ 1,572
サービス事業	16,463 (16,200)	1,862 (1,750)	17,726 (17,500)	1,958 (1,900)
伸率	106.2%	108.5%	107.7%	105.2%
増減	961	145	1,262	96
リフォーム事業	7,705 (8,550)	△ 117 (△ 20)	7,797 (8,200)	△ 199 (△ 100)
伸率	91.5%	-	101.2%	-
増減	△ 711	△ 171	91	△ 82
その他事業	3,563 (3,550)	238 (240)	3,610 (3,400)	249 (220)
伸率	97.4%	91.3%	101.3%	104.6%
増減	△ 93	△ 22	47	10
配賦不能額	-	2,840 (2800)	-	3,346 (3,400)
合計	143,180 (145,000)	10,087 (10,500)	145,855 (147,000)	7,280 (9,000)
伸率	111.3%	109.0%	101.9%	72.2%
増減	14,530	834	2,674	△ 2,806

- ◆ 「シャッター関連製品事業」は、主に物流倉庫向けの重量シャッターが堅調に推移した一方で、重量シャッターの取付経費が増加したこと、プレハブメーカー向けの窓シャッターが減少したことなどにより、「増収減益」。
- ◆ 「建材関連製品事業」は、住宅向けエクステリア製品が堅調に推移したことと連結子会社の増加が売上に寄与した一方で、ドアの販売価格の下落、および取付経費の増加が影響し、「増収減益」。
- ◆ 「サービス事業」は、熊本地震など災害対応をはじめとする修理の売上と、法定点検も含めた点検の売上増加が寄与し、「増収増益」。
- ◆ 「リフォーム事業」は、ビルリニューアルの受注が売上に寄与した一方で、住宅リフォームの受注件数が減少し、「増収減益」。
- ◆ 「その他事業」は、太陽光発電システム事業の減少を止水事業および新規連結子会社の増加で補い、「増収増益」。

売上高の用途別セグメント別分析

(単位: 億円)

製品・事業群		用途	合計	工場・倉庫	医療福祉・学校	オフィスビル・公共施設	商業施設	住宅その他
増収額			26.7	10.8	0.1	△ 13.5	2.1	27.2
売上高			1,458.5	348.5	196.8	190.9	119.7	602.6
シャッター関連製品事業計	増収額		6.6	12.0	0.8	△ 1.6	△ 1.2	△ 3.4
	売上高		514.5	210.2	25.9	43.1	49.5	185.8
軽量シャッター群	増収額		2.0	2.0	0.2	0.5	△ 1.1	0.4
	売上高		155.6	61.5	3.0	9.2	11.9	70.0
重量シャッター群	増収額		10.7	9.0	1.3	△ 1.6	△ 0.1	2.1
	売上高		238.1	128.4	13.5	25.3	27.7	43.2
窓シャッター群	増収額		△ 7.1	-	-	-	-	△ 7.1
	売上高		56.8	-	-	-	-	56.8
シャッター関連群	増収額		1.0	1.0	△ 0.7	△ 0.5	0.0	1.2
	売上高		64.0	20.3	9.4	8.6	9.9	15.8
建材関連製品事業計	増収額		6.1	△ 3.6	△ 2.5	△ 16.7	2.8	26.1
	売上高		652.7	71.6	157.5	106.5	42.0	275.1
エクステリア群	増収額		5.3	-	-	-	-	5.3
	売上高		77.2	-	-	-	-	77.2
ドア・パーティション群	増収額		△ 15.8	△ 3.6	△ 2.5	△ 16.7	2.8	4.2
	売上高		479.6	71.6	157.5	106.5	42.0	102.0
その他建材製品群	増収額		16.6	-	-	-	-	16.6
	売上高		95.9	-	-	-	-	95.9
サービス事業計	増収額		12.6	1.2	2.3	4.6	0.5	4.0
	売上高		177.2	59.5	10.9	35.5	25.7	45.6
リフォーム事業計	増収額		0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
	売上高		78.0	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0
その他事業計	増収額		0.5	1.2	△ 0.5	0.2	0.0	△ 0.4
	売上高		36.1	7.2	2.5	5.8	2.5	18.1

- ◆ 増収額26億7,000万円を用途別で見ると、「工場・倉庫」「住宅その他」向けが牽引。
- ◆ 「工場・倉庫」向けは、主に物流倉庫向けの重量シャッターが好調に推移し、10億8,000万円の「増収」。
- ◆ 「医療福祉・学校」向けは、ドア群の減少をシャッター群がカバーし、1,000万円の「増収」。
- ◆ 「オフィスビル・公共施設」向けは、ドアとパーティション群の減少が影響し、13億5,000万円の「減収」。
- ◆ 「商業施設」向けは、シャッター群の減少をドア群がカバーし、2億1,000万円の「増収」。
- ◆ 「住宅その他」向けは、主に新規連結の子会社「ワイエスHD」が寄与し、27億2,000万円の「増収」。

2018年3月期の見通しについて

【事業環境】	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	実績	伸率	実績	伸率	予想	伸率
新設住宅着工戸数 (万戸)	92.0	104.6%	97.4	105.8%	95.1	97.6%

非住宅着工床面積 (万㎡)	2016年3月期		2017年3月期		2018年3月期	
	実績	伸率	実績	伸率	予想	伸率
工場 (万㎡)	885	114.7%	828	93.6%	→	
倉庫 (万㎡)	809	98.8%	865	106.9%	→	
医療・福祉 (万㎡)	692	75.7%	736	106.4%	→	
店舗 (万㎡)	605	84.7%	561	92.8%	→	
事務所 (万㎡)	612	99.0%	668	109.2%	↗	
非住宅着工床面積 (万㎡)	4,998	95.0%	5,133	102.7%	5,185	101.0%

新設住宅着工床面積と非住宅着工床面積は、建設経済研究所のデータを参考に試算

【売上構成比】	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
住宅向け	31.8%	33.4%	34.6%
非住宅向け	68.2%	66.6%	65.4%

◆ 経済環境について

雇用環境の改善や企業の設備投資などが下支えとなり景気は緩やかな回復基調で推移する一方で、中国をはじめとする新興国の景気減速、鋼材等材料価格の上昇など、景気の下振れリスクの影響が懸念されることから、依然として先行きが不透明な状況が続く見通し。

◆ 建築市場について

新設住宅着工戸数は、持家は微増傾向にあるものの、貸家が減少する見通しから、前期比2.4%減の95万1,000戸を予想。

非住宅着工床面積は、東京オリンピック・パラリンピックを見込んだ案件をはじめ、企業収益の改善等を背景に、設備投資は底堅く推移する見込みから、前期比1.0%増の5,185万㎡を予想。

(単位:百万円)

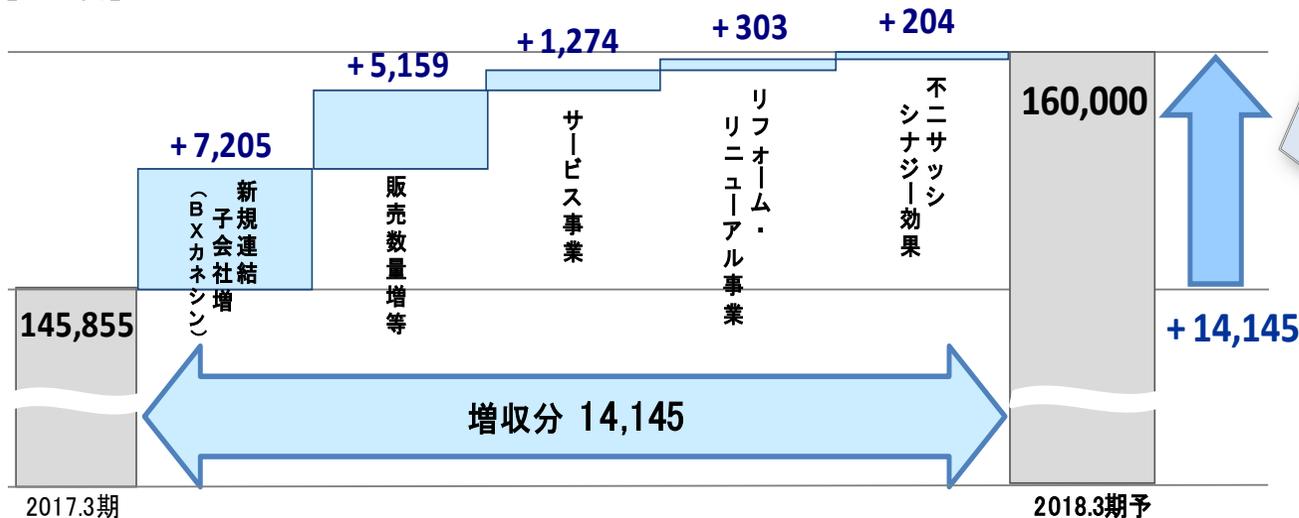
	2017年3月期				2018年3月期					
	中計	通期実績	売上比	計画比	中計	通期予想	売上比	前期比		計画比
								伸率	増減	
売上高	151,000	145,855	100.0%	96.6%	163,000	160,000	100.0%	109.7%	14,145	98.2%
売上原価	-	107,708	73.8%	-	-	117,200	73.3%	108.8%	9,492	-
売上総利益	-	38,146	26.2%	-	-	42,800	26.7%	112.2%	4,654	-
販売費及び一般管理費	-	30,866	21.2%	-	-	33,800	21.1%	109.5%	2,934	-
営業利益	10,200	7,280	5.0%	71.4%	13,855	9,000	5.6%	123.6%	1,720	65.0%
経常利益	-	8,463	5.8%	-	-	9,550	6.0%	112.8%	1,087	-
当期純利益	-	5,967	4.1%	-	-	6,400	4.0%	107.3%	433	-
1株当たり配当金	-	20円		-	-	20円		-	-	-
設備投資額	3,500	8,098		231.4%	4,000	5,000		-	△ 3,098	125.0%
減価償却費	-	2,954		-	-	3,500		-	546	-
期末従業員 (人)	正社員	-	4,012		-	4,130		-	118	-
	臨時雇用者	-	1,056		-	1,120		-	64	-
	合計	-	5,068		-	5,250		-	182	-

◆ 首都圏を中心とした大型現場の着工遅れの影響は、下期以降に改善される見通しの一方で、今期の業績に織り込まれる要素が少ないこと。また、3月末の受注残高が約65億円増加している中で、市場の競争激化が今期も継続する見通しから、売上高は前期比9.7%増を見込むものの、計画比1.8%減の1,600億円を予想。営業利益は前期比23.6%増を見込むものの、計画比35.0%減の90億円を予想。

◆ 「設備投資額」は、設備の合理化および更新とシステム関連費用をあわせた30億円、工場の増築とラインの増設で20億円、計50億円の見通し。

売上高および営業利益の増減要因

【売上高】 (単位:百万円)

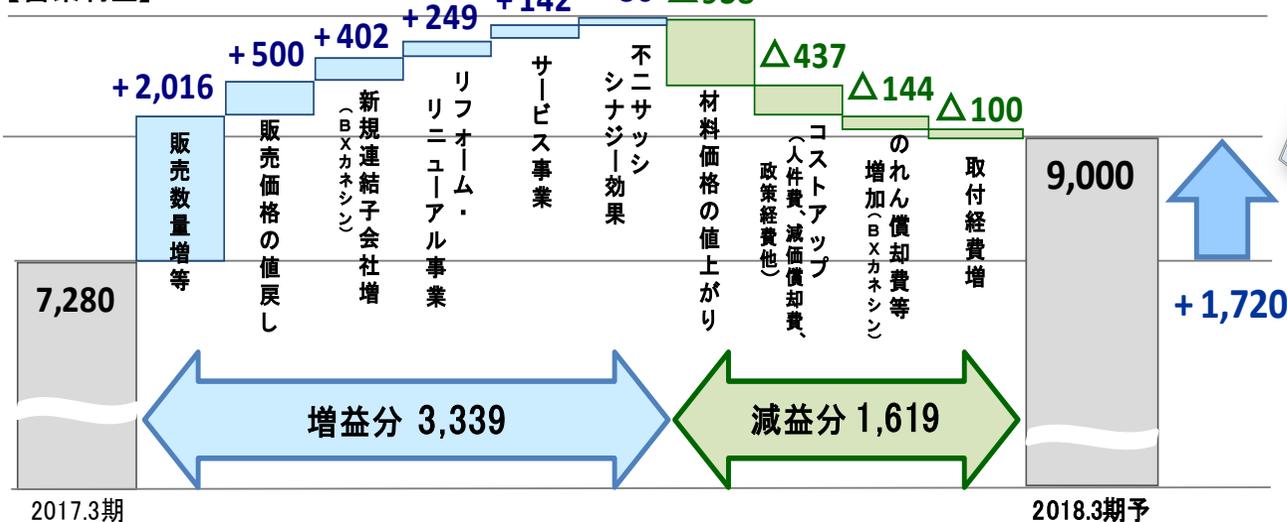


◆「売上高」の増減要因

「新規連結子会社の増加分」、「販売数量の増加」、「サービス事業」など。

141億4,500万円の「増収」を見込む。

【営業利益】 (単位:百万円)



◆「営業利益」の増減要因

増益要因は、「販売数量の増加」、「販売価格の値戻し」、「新規連結子会社の増加分」など。

減益要因は、「材料価格の値上がり」、要員の増加と処遇改善に伴う人件費の増加、減価償却費の増加など政策経費を含めた「コストアップ」など。

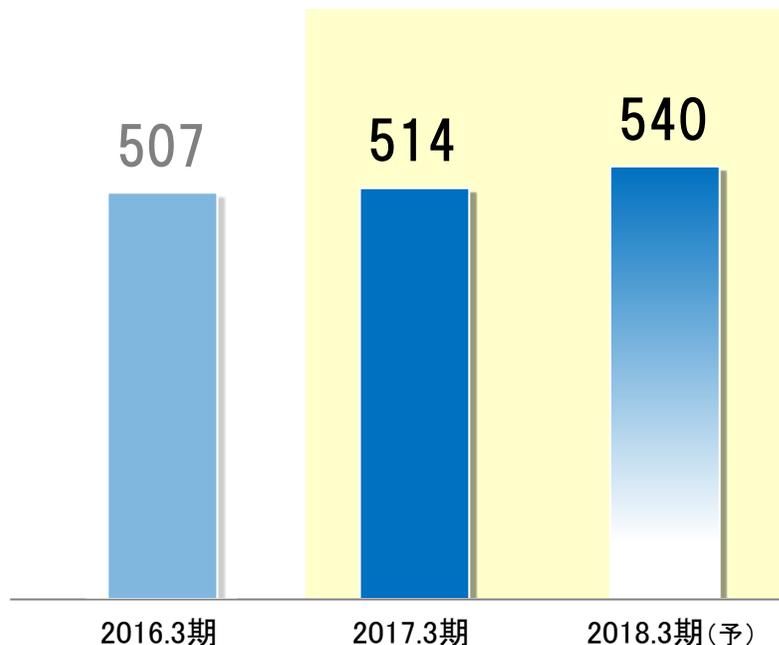
トータルで17億2,000万円の「増益」を見込む。

(単位:百万円)

【売上高】	2017年3月期						2018年3月期					
	上期実績	伸率	増減	通期実績	伸率	増減	上期予想	伸率	増減	通期予想	伸率	増減
シャッター関連事業	23,428	101.8%	416	51,445	101.3%	656	24,400	104.1%	972	54,000	105.0%	2,555
建材関連事業	26,809	103.8%	982	65,275	101.0%	616	32,700	122.0%	5,891	75,100	115.1%	9,825
サービス事業	7,980	107.5%	553	17,726	107.7%	1,262	8,500	106.5%	520	19,000	107.2%	1,274
リフォーム事業	3,464	92.0%	△ 302	7,797	101.2%	91	3,800	109.7%	336	8,100	103.9%	303
その他事業	1,477	89.3%	△ 177	3,610	101.3%	47	1,600	108.3%	123	3,800	105.2%	190
合計	63,160	102.4%	1,473	145,855	101.9%	2,674	71,000	112.4%	7,840	160,000	109.7%	14,145
【営業利益】												
シャッター関連事業	2,920	90.0%	△ 324	6,788	90.0%	△ 753	3,300	113.0%	380	7,700	113.4%	912
建材関連事業	649	88.2%	△ 86	1,829	53.8%	△ 1,572	800	123.2%	151	2,470	135.0%	641
サービス事業	574	96.4%	△ 21	1,958	105.2%	96	600	104.5%	26	2,100	107.2%	142
リフォーム事業	△ 134	-	△ 12	△ 199	-	△ 82	0	-	134	50	-	249
その他事業	94	90.1%	△ 10	249	104.6%	10	100	105.8%	6	280	112.3%	31
配賦不能額	1,713	124.5%	337	3,346	117.8%	505	1,800	105.1%	87	3,600	107.6%	254
合計	2,390	75.1%	△ 793	7,280	72.2%	△ 2,806	3,000	125.5%	610	9,000	123.6%	1,720
【受注残高】												
シャッター関連事業	20,858	112.7%	2,357	18,855	111.1%	1,884	22,850	109.6%	1,992	21,000	111.4%	2,145
建材関連事業	37,998	96.4%	△ 1,404	34,056	113.0%	3,926	41,500	109.2%	3,502	39,600	116.3%	5,544
サービス事業	2,130	122.3%	387	1,730	105.1%	83	2,250	105.6%	120	1,800	104.0%	70
リフォーム事業	1,581	121.9%	283	1,358	113.7%	163	1,750	110.7%	169	1,500	110.5%	142
その他事業	903	142.9%	270	826	196.0%	404	1,250	138.4%	347	1,100	133.2%	274
合計	63,471	103.1%	1,894	56,827	112.8%	6,462	69,600	109.7%	6,129	65,000	114.4%	8,173
【受注高】												
シャッター関連事業	27,315	106.5%	1,662	53,329	102.8%	1,429	28,394	103.9%	1,079	56,144	105.3%	2,815
建材関連事業	34,678	97.3%	△ 975	69,201	106.1%	3,989	40,143	115.8%	5,465	80,643	116.5%	11,442
サービス事業	8,464	109.2%	710	17,809	106.7%	1,114	9,019	106.6%	555	19,069	107.1%	1,260
リフォーム事業	3,850	88.1%	△ 520	7,960	97.0%	△ 247	4,191	108.8%	341	8,241	103.5%	281
その他事業	1,958	122.2%	356	4,015	121.7%	714	2,023	103.3%	65	4,073	101.5%	58
合計	76,267	101.6%	1,232	152,317	104.8%	7,001	83,772	109.8%	7,505	168,172	110.4%	15,855

重点施策の進捗状況について

「シャッター事業」売上高(億円)



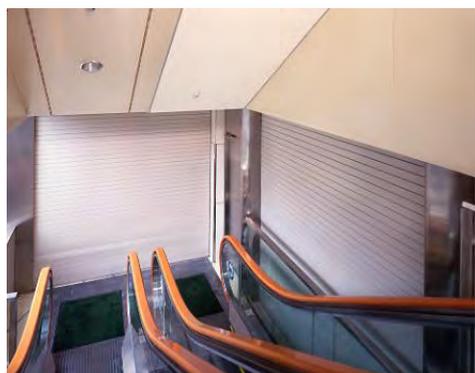
◆シャッター事業

- ・17年3月期は、窓シャッターが低調に推移した一方で、重量シャッターが好調に売上を伸ばした結果、売上高は前期比7億円増の514億円となった。
- ・18年3月期は、堅調な受注残を背景に、当期受注当期売上げを加速させることで、前期比26億円増の540億円をめざす。

「重量シャッター」は、物流倉庫など非住宅市場向けの受注強化を図り、売上拡大につなげる。

「軽量シャッター」は、住宅ガレージを中心に電動化を推進し、BtoC向けEC事業の推進により売上拡大を図る。

「窓シャッター」は、宅外操作が可能なHEMS対応商品の提案を強化し、ストック対応も含めた電動化を推進することで売上拡大を図る。



「防火防煙シャッター」



フラットガレージシャッター
「ポルティエ」

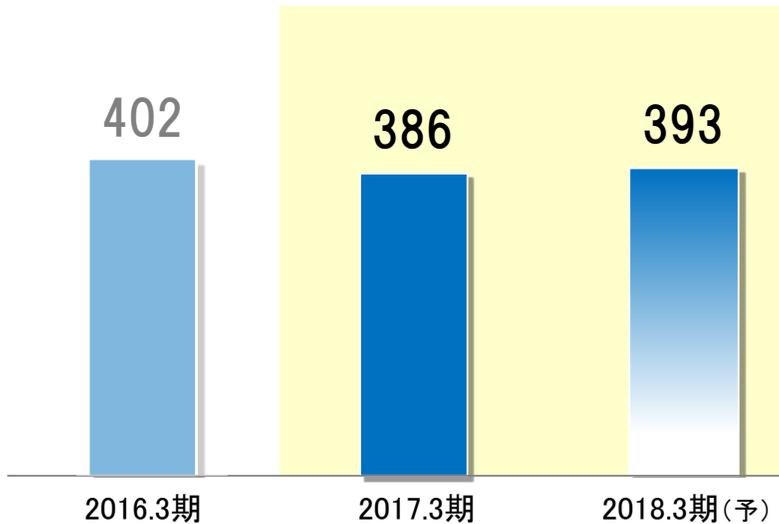


「オーバースライディングドア」
高速シートシャッター 「大間迅」

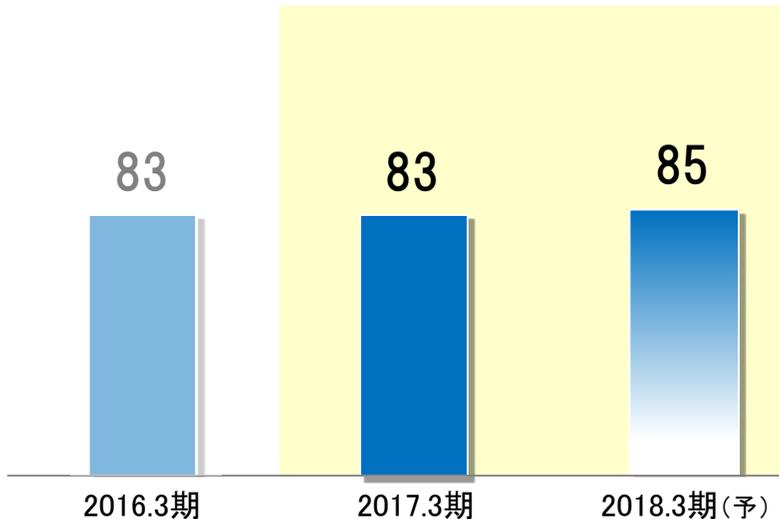


HEMS対応の窓シャッター
「マドマスター・スマートタイプ」

「ドア事業」売上高(億円)



「パーティション事業」売上高(億円)



◆ドア事業

- ・17年3月期は、主にオフィスビル向けが減少した結果、売上高は前期比16億円減の386億円となった。
- ・18年3月期は、堅調な受注残を前提に、グループ全体でさらなる受注拡大を図ることで、前期比7億円増の393億円をめざす。

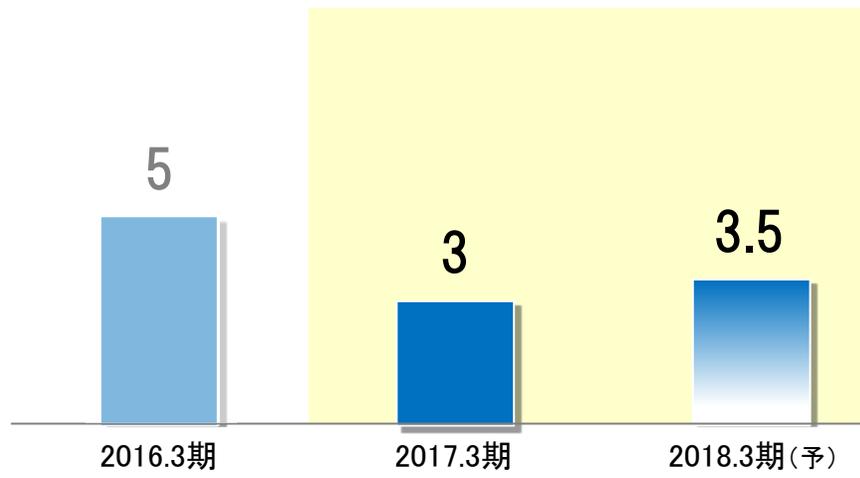
◆パーティション事業

- ・17年3月期は、主にオフィスビルと学校向けが苦戦し、売上高は前期と同じ83億円となった。
- ・18年3月期は、オフィスビル向けに投入した新商品の提案を強化することなどにより、前期比2億円増の85億円をめざす。



オフィスビル向けの新商品
パネル式可動間仕切
「プレウォール フィット」

「エコ事業」売上高(億円)



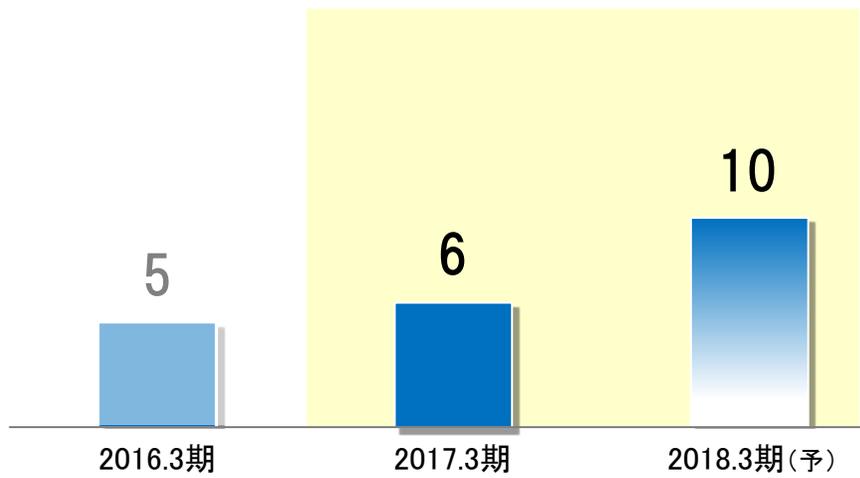
◆エコ事業(エネルギー事業)

- ・17年3月期は、太陽光発電市場の縮小の影響を受け、売上高は前期比2億円減の3億円となった。
- ・18年3月期は、依然として低調な市場環境を考慮し、売上高3億5,000万円をめざす。

◆防災事業(止水事業)

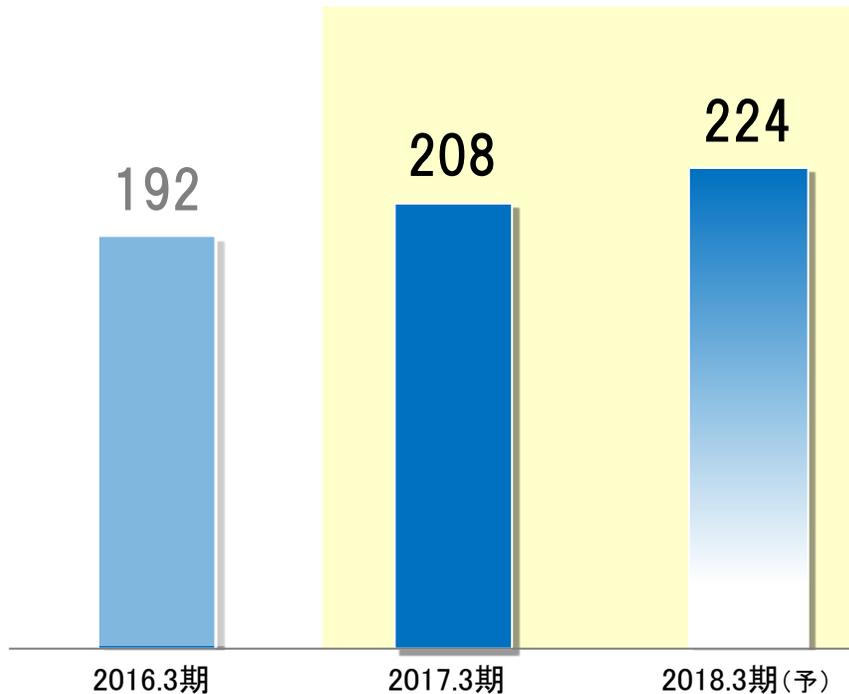
- ・17年3月期売上高は、前期比1億円増の6億円となった。
- ・18年3月期は、製品バリエーションの拡充と店舗や法人顧客をターゲットに新規顧客の拡大を図ることで、売上高は前期比4億円増の10億円をめざす。

「防災事業」売上高(億円)



止水製品のバリエーション拡充
 「浮力起伏式止水板」

「メンテナンス事業」売上高(億円)

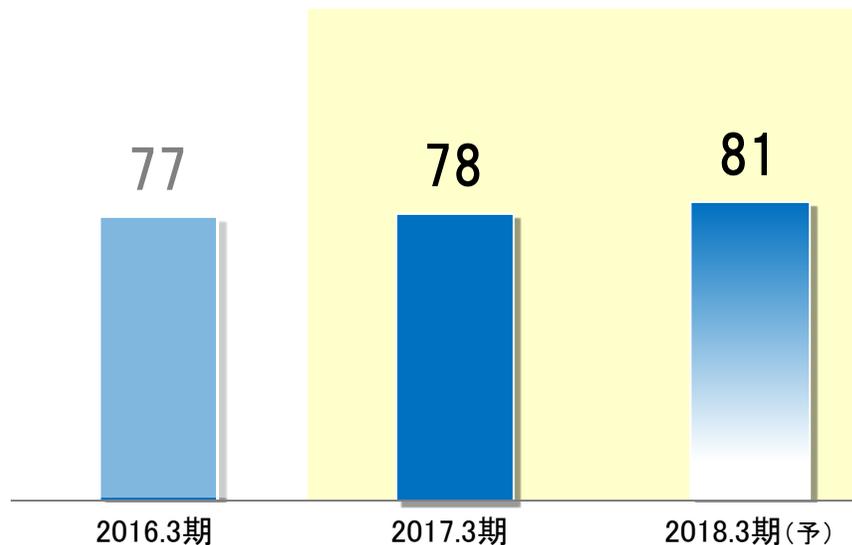


◆メンテナンス事業

- ・17年3月期は、熊本地震など災害対応と防火設備の法定点検の影響もあり、売上高は前期比16億円増の208億円となった。
- ・18年3月期は、引き続き法定点検の対応強化を進めるなど、売上高は前期比16億円増の224億円をめざす。



「ロングライフ事業」売上高(億円)



マンション耐震補強工事の施工事例

◆ロングライフ事業

- ・17年3月期は、住宅リフォーム事業の受注減が影響したものの、ビルリニューアル事業が堅調に実績を重ねてきたことにより、売上高は前期比1億円増の78億円となった。
- ・18年3月期は、前期比3億円増の81億円をめざす。

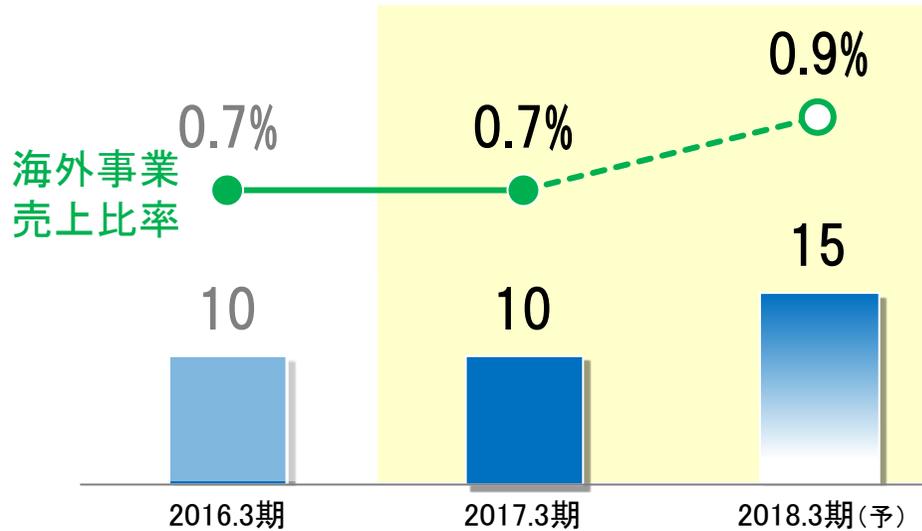
<ビルリニューアル事業>

- ・全国展開を見据えたマンションの大規模改修などを視野に、受注の強化を図る。

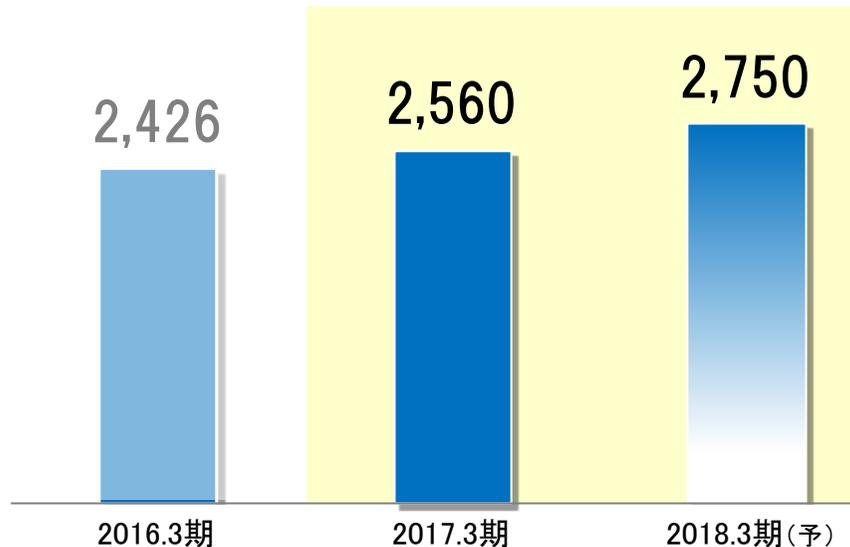
<住宅リフォーム事業>

- ・BXグループ内の連携強化を含めた商品アイテムの拡充、Webを活用したキャンペーンの企画・展開、定期点検・訪問などを推進することで顧客拡大を図り、受注強化につなげる。

「海外事業」売上高(億円)



「工事員数」(人)



◆海外事業

- ・17年3月期は、ベトナムを中心とした事業展開を進める中で、日系ゼネコン向けの受注減が影響し、売上高は前期と同じ10億円となった。
- ・18年3月期は、Eurowindow社との協業体制を見直し、ローカル市場の受注拡大を図ることで、売上高は前期比5億円増の15億円をめざす。

◆施工体制の強化拡充

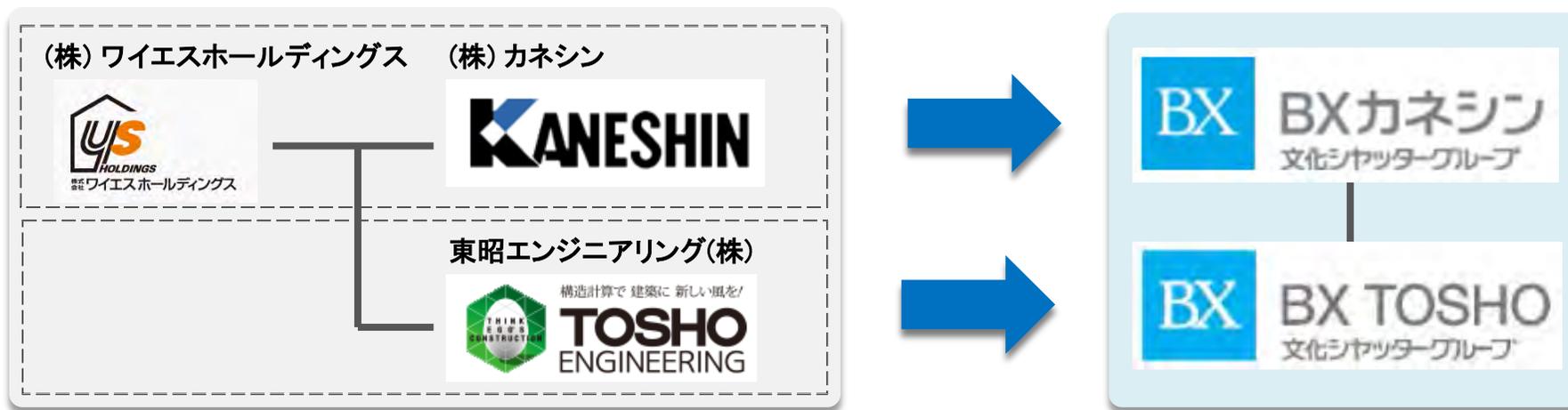
- ・17年3月期は、前期比134名増の2,560名となった。
- ・18年3月期は、引き続きオリンピック、再開発物件の受注増対応を見据えた工事員の確保を図り、2,750名体制をめざす。
- ・新人工事員の育成や研修など、工事員のバックアップ体制を強化し、工事員の多能工化、生産性向上を図る。



トピックス

◆BXカネシンが新体制でスタート

BXグループとしてのブランドイメージの統一と事業の効率化を図ることを目的に、(株)ワイエスホールディングスが、4月1日付けで事業会社の(株)カネシンを合併し、「BXカネシン(株)」に社名を変更した。同様に事業会社の東昭エンジニアリング(株)が、BXカネシンの子会社として「BX TOSHO(株)」に社名を変更。



◆ガバナンス体制の強化 ～監査等委員会設置会社への移行～

取締役会の監督機能を一層強化し、さらなるコーポレート・ガバナンスの強化と持続的な成長による企業価値の向上を図るため、「監査等委員会設置会社」に移行する予定。

參考資料

- 経営理念 「私たちは、常にお客様の立場に立って行動します」
「私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します」
「私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します」
- 概 要 文化シャッター株式会社及び子会社18社
- 事 業 シャッター事業、ビル建材事業、住宅建材事業、リフォーム事業、
リニューアル事業、保守・点検・サービス事業、他
- 拠 点 321営業拠点 130サービス拠点 24工場
- 従業員数 4,012名(2017年3月末現在)

【文化シャッター株式会社(単体)】

代表者 代表取締役社長 執行役員社長 潮崎 敏彦

設 立 1955年(昭和30年)4月18日

資本金 15,051百万円

本 社 東京都文京区西片1-17-3

文化シャッター株式会社

シャッター関連製品事業

「電動開閉機」製造・販売

BX新生精機（株）

「オーニング」製造・販売

BXテンパール（株）

「シャッター」製造・販売

BX沖縄文化シャッター（株）

「シャッター」販売

文化シャッター秋田販売（株）
文化シャッター高岡販売（株）
 (※3)

※1 非連結子会社で持分法非適用会社

※2 関連会社で持分法適用会社

※3 関連会社で持分法非適用会社

建材関連製品事業

「ドア」「パーティション」製造

BX文化パネル（株）
BX中央工業（株）(※1)

「ドア」製造

BXケンセイ（株）
BX鐵矢（株）
BX東北鐵矢（株）
BX朝日建材（株）

「建築金物」製造・販売

BXカネシン（株）

「ドア」「スライディングウォール」製造・販売

BXティアール（株）

「ステンレス建材」製造・販売

BX紅雲（株）

「建築材料」製造・販売

BX西山鉄網（株）

「再生複合材」製造・販売

（株）エコウッド (※3)

その他事業

「注文家具」製造・販売

BX文化工芸（株）

「損害保険代理業」

BXあいわ（株）

「建築構造設計」

BX TOSHO（株）

サービス事業

「シャッター・ドア等の修理・点検」

文化シャッターサービス（株）

リフォーム事業

「住宅リフォームの設計・施工・請負」

BXゆとりリフォーム（株）

海外事業展開

「シャッター」「ドア」「オーニング」製造・販売

BX BUNKA VIETNAM Co.,Ltd.

「樹脂サッシ」「アルミサッシ」製造・販売

EUROWINDOW.,JSC (※2)

(ベトナム)

「各種シャッター製品」販売・メンテナンス

BX BUNKA TAIWAN Co.,Ltd.
 (※1)

(台湾)

～海外企業との提携～

Entrematic Belgium NV
 1999年より高速シートシャッター
 「エア・キーパー大間迅」発売

その他

「ビル用サッシ他」製造・販売

不二サッシ（株）グループ
 (※2)

連結貸借対照表

(単位:百万円、%)

	2016年3月期		2017年3月期		増	減
		構成比		構成比		
流動資産	81,024	62.3	81,542	58.4	518	100.6
現金・預金	22,478	17.3	22,491	16.1	13	100.1
受取手形・売掛金	41,814	32.1	42,145	30.2	331	100.8
たな卸資産	12,956	10.0	13,028	9.3	72	100.6
その他	3,776	2.9	3,878	2.8	102	102.7
固定資産	49,073	37.7	58,118	41.6	9,045	118.4
土地	9,633	7.4	11,540	8.3	1,907	119.8
投資有価証券	13,957	10.7	15,723	11.3	1,766	112.7
その他の投資・資産	2,190	1.7	2,544	1.8	354	116.2
その他	23,293	17.9	28,311	20.3	5,018	121.5
資産合計	130,098	100.0	139,660	100.0	9,562	107.3
流動負債	46,266	35.6	46,975	33.6	709	101.5
支払手形・買掛金	29,526	22.7	29,844	21.4	318	101.1
短期借入金	2,000	1.5	3,200	2.3	1,200	160.0
その他	14,740	11.3	13,931	10.0	△ 809	94.5
固定負債	23,110	17.8	25,755	18.4	2,645	111.4
長期借入金	3,000	2.3	5,550	4.0	2,550	185.0
退職給付に係る負債	18,238	14.0	18,233	13.1	△ 5	100.0
その他	1,872	1.4	1,972	1.4	100	105.3
負債合計	69,376	53.3	72,731	52.1	3,355	104.8
純資産合計	60,721	46.7	66,929	47.9	6,208	110.2
負債・純資産合計	130,098	100.0	139,660	100.0	9,562	107.3

1株当たり株主資本

846円95銭

933円54銭

期末株価

925円

860円

PBR(株価純資産倍率)

1.09

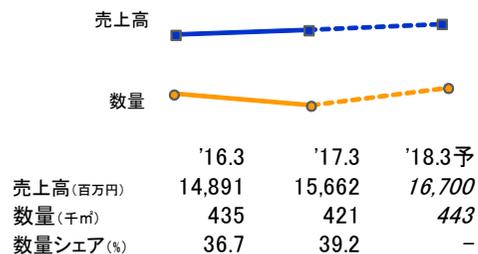
0.92

連結キャッシュフロー計算書

(単位: 百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	増減
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	6,919	7,979	1,060
税金等調整前当期純利益	10,420	8,734	△ 1,686
減価償却費	2,500	2,947	447
売上債権の増減額(△は増加)	△ 2,594	1,378	3,972
仕入債務の増減額(△は減少)	2,417	△ 365	△ 2,782
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 941	483	1,424
法人税等の支払額	△ 3,608	△ 3,977	△ 369
その他	△ 1,275	△ 1,221	54
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 11,697	△ 9,435	2,262
投資有価証券の取得による支出	△ 1,987	△ 104	1,883
有形固定資産の売却による収入	9	12	3
有形固定資産の取得による支出	△ 3,523	△ 6,193	△ 2,670
無形固定資産の取得による支出	△ 1,449	△ 1,111	338
その他	△ 4,747	△ 2,039	2,708
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	1,692	1,825	133
長期借入による収入	4,000	5,000	1,000
長期借入金の返済による支出	△ 480	△ 1,250	△ 770
配当金の支払額	△ 1,362	△ 1,434	△ 72
その他	△ 466	△ 491	△ 25
4. 現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 3,060	338	3,398
5. 現金及び現金同等物の期首残高	23,582	20,522	△ 3,060
6. 現金及び現金同等物の期末残高	20,522	20,860	338

<重量シャッター>

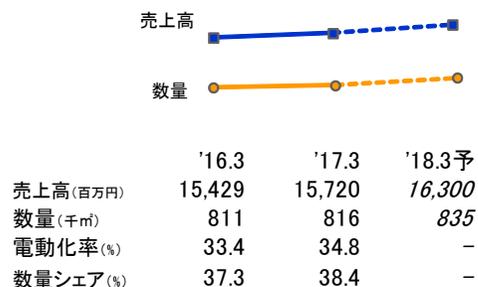


※数量シェアは、(社)日本シャッター・ドア協会の生産数量をもとに算出



- ◆ 17.3期の売上高は、前期比5.2%増。シェアは39.2%と2.5ポイントアップ。
- ◆ 18.3期は、大型物流倉庫向けを中心に売上高は前期比6.6%増の167億円を計画。

<軽量シャッター>

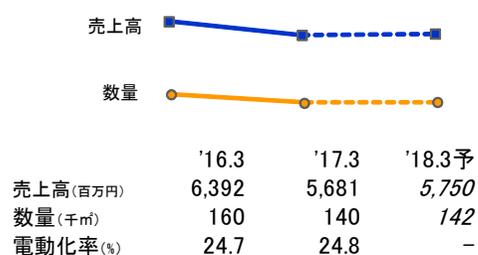


※数量シェアは、(社)日本シャッター・ドア協会の生産数量をもとに算出



- ◆ 17.3期の売上高は、前期比1.9%増。シェアは38.4%と1.1ポイントアップ。
- ◆ 18.3期は、住宅および工場・倉庫向けを中心に売上高は前期比3.7%増の163億円を計画。

<窓シャッター>



- ◆ 17.3期の売上高は、前期比11.1%減。
- ◆ 18.3期の売上高は、前期比1.2%増の57億5,000万円を計画。

<ドア>



	'16.3	'17.3	'18.3予
売上高(百万円)	37,444	36,267	37,000



- ◆ 17.3期の売上高は、前期比3.1%減。
- ◆ 18.3期の売上高は、前期比2.0%増の370億円を計画。

<パーティション>



	'16.3	'17.3	'18.3予
売上高(百万円)	8,243	8,276	8,500



- ◆ 17.3期の売上高は、前期比0.4%増。
- ◆ 18.3期の売上高は、前期比2.7%増の85億円を計画。

<エクステリア>



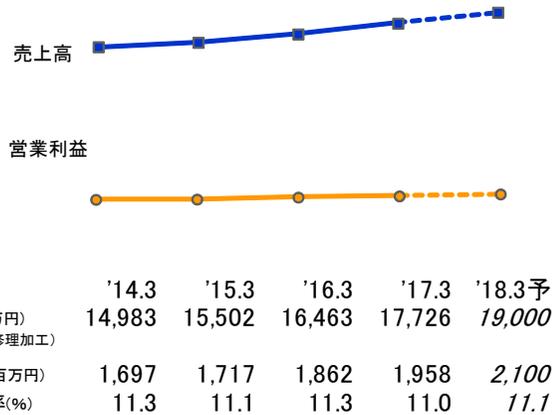
	'16.3	'17.3	'18.3予
売上高(百万円)	7,192	7,732	8,000

※横引雨戸を含めた金額で表示しています。



- ◆ 17.3期の売上高は、前期比7.5%増。
- ◆ 18.3期の売上高は、前期比3.5%増の80億円を計画。

<サービス事業>

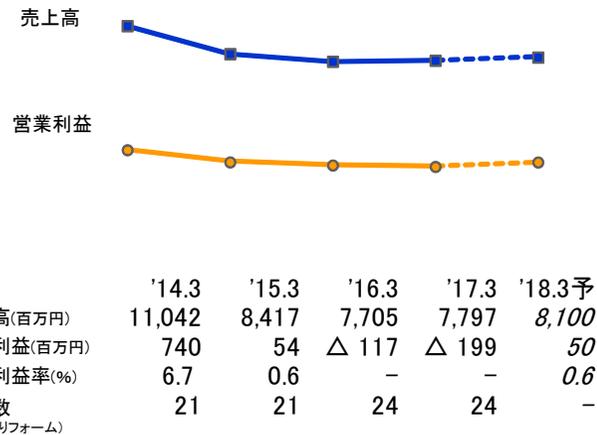


- ◆ 17.3期は、熊本地震等の災害対応及び、法定点検も含めた点検売上が増加し、売上高は前年比7.7%増。
- ◆ 18.3期は、防火設備の定期報告制度の動きに連動した点検売上の増加を見込んで、売上高は前期比7.2%増の190億円を計画。



修理・保守点検の様子

<リフォーム・リニューアル事業>



- ◆ 17.3期は、ビルリニューアルの受注件数の増加により、売上高は前期比1.2%増。
- ◆ 18.3期は、住宅リフォームの受注状況が改善傾向にあることから、売上高は前期比3.9%増の81億円を計画。



昨年度リニューアルしたHP

問い合わせ先

文化シャッター株式会社 経営企画部広報室 曾根、小林

TEL03-5844-7150 FAX03-5844-7141

E-mail bxinfo@mail.bunka-s.co.jp

<http://www.bunka-s.co.jp/>